

春彼岸号 第 82 号

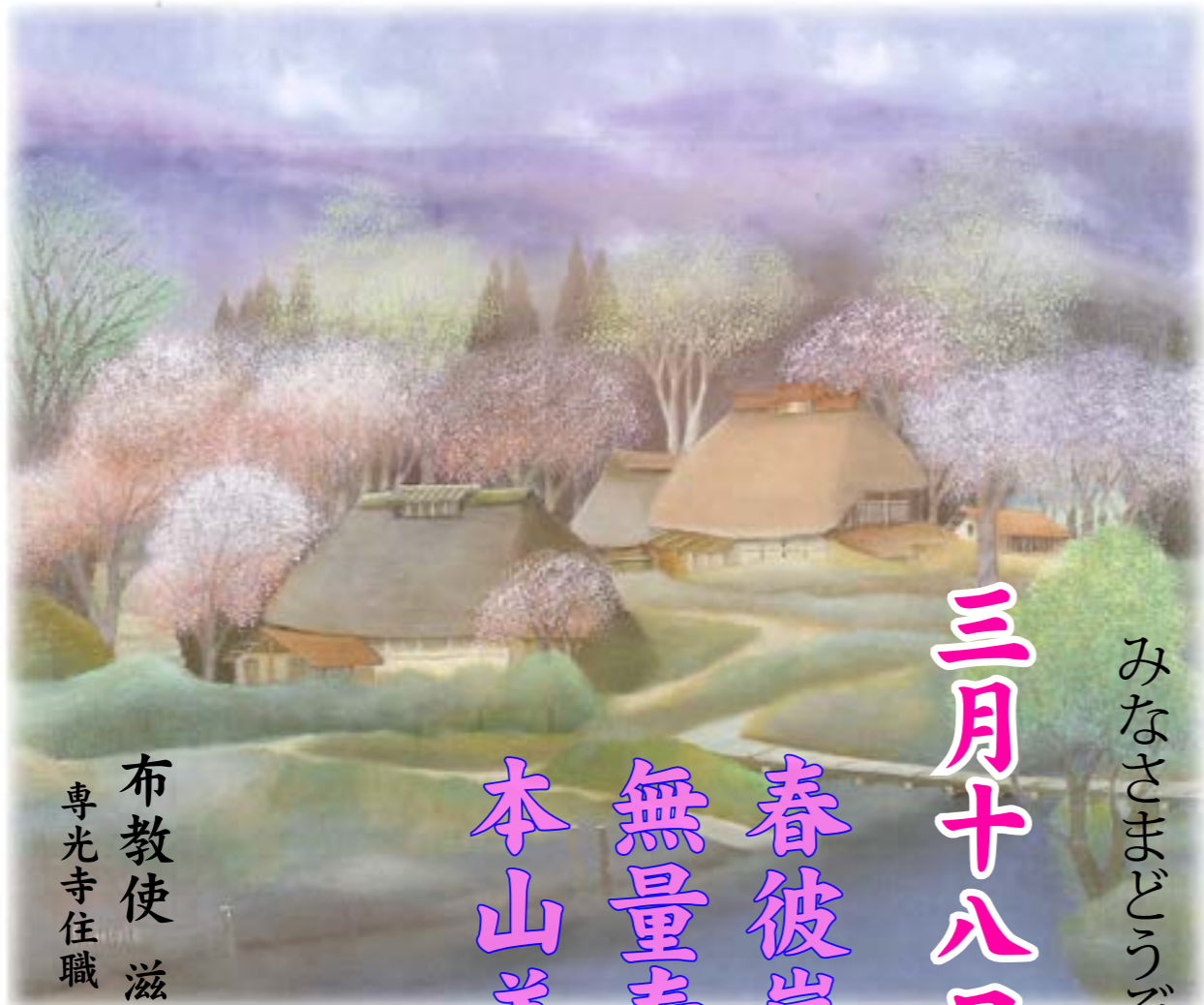
〒 950-2022 新潟市西区小針 4 丁目 5 番 1 8 号

真宗仏光寺派 瑞林寺 光輪会

電話 (025)266-1846

FAX (025)266-1907

ホームページ <http://zuirinji.com/>



みなさまどうぞお参り下さい

三月十八日(月)

春彼岸法要

無量寿廟法要

本山差向布教

お日中 十時三十分

お 齋 正 午

お逮夜 一時十五分

布教使 滋賀県大津市

専光寺住職 蒲生 容仁師

※月参り当日は休みます。希望の方は前後にお参りしますのでご連絡ください。

老院の語る

親鸞聖人の越後

お念仏の歳時記⑥

師匠寺・旦那寺・檀家寺

浄土真宗では檀家の事を「門徒」と称するのが正式で、佐渡などでは「お宅は御門徒」ですね、と「御」をつけて丁寧によびます。

また自分の所属するお寺さまを「師匠寺」とか、「旦那寺」「檀家寺」と呼称してきました。それを訛ってか県内でも上越地方では住職を「旦那」と呼ばれてびっぴりしたことがあります。

正式には真宗では「手次寺」といい、阿弥陀様の本願を門徒に取り次ぐ役目で、阿弥陀様と門徒の縁を結び、お浄土へ導く師匠として、「師匠寺」のことばとなりました。

師匠寺とか手次寺とは、仏法の教えをご縁としていますが、檀家寺とか旦那寺は、寺を維持する立場から生まれたことばです。旦那とは、インドのダーナという言葉で中国の漢字を音であてました。ダーナとは布施、ほどこすという意味から、寺を支える人になりました。

半檀家・半旦那

一軒の家に男と女の二つのお寺がある、最近は一つにまとめられていますが、新潟で昔からよくありました。これを半檀家・半旦那といいますが、半檀家でも男女同じ宗旨が普通ですが、男は禅宗、女は門徒とまったく宗旨を異にすることもあり。近頃は五十嵐地域は男は禅宗の赤塚の大慈寺様、女は真宗の内野清徳寺・五十嵐妙音寺様)

最近まで半檀家であった田村三太郎さん、江戸時代に白根の塩俵から小新上組庄屋の田村様に奉公して貯え、小針の空き屋敷と田畑を譲り受け、田村姓を名乗る。寺は黒崎金巻の聞念寺様、しかし速い上に未だ新宅、一家の主人に限り、ほかの女・子供は地元のお寺の半檀家になったと先々代の文蔵老人からの伝聞です。田村宅には当時の田知家屋敷「譲り証文」が残っています。

男が禅宗で女は門徒というのは、性差別の時代、男も女も、善人、悪人差別なく平等に助かる法は阿弥陀如来の本願のみ。その説法を聴聞できるのは門徒寺しかありません。阿弥陀如来は弱きもの、苦悩深きもの、罪深きものに注がれる大悲の主。その代表者こそ

そ女人でした。そこに門徒を自分の宗旨のお寺として信心を選びとった女寺としての半檀家ができました。

「婆ソノママダゾ」

仏とは、どんな人も一人もらず差別なく平等に助ける大慈悲心です。阿弥陀様は老少善悪、知恵能力の優劣など問わず、無条件の救いを約束されました。愚かな者は愚かなまま、悪人は悪人のまま、ソノママ抱きとめてくださる弥陀の慈悲です。

田村三太郎さんのノブお婆ちゃん、お念仏を喜ぶ日暮らしのなかで、孫に向かって、つねに「頼むから一度でよいからこの婆に『婆ソノママダゾ』と、如来さまのよび声を聞かしてくれや」が口癖でした。それがある日突然、幼児の虎蔵さんコタツやぐらの上にあるや「婆ソノママダゾ」と叫んだとか。婆ちゃん驚き喜び、ひれ伏してお念仏があふれます。孫を拜んで、ありがとうございますと感激の合掌の姿が語り伝えられています。

法名釋妙相 昭和十年一月八日 俗名 田村ノブ 八十三歳
その孫の虎蔵さんもすてにお浄土へ仲間入り、ただ今お浄土から家族を見守っておられます。

淤 泥 華

★今年の冬は、雪は少なかつたのですが、寒い日が長く続きました。毎朝六時のお朝事も一つの修行です。寒中の読経は特に身が引き締まります。

★世話方会議で春の旅行が決まりました。今年NHKの大河ドラマ「八重の桜」の舞台・会津へ。桜の時期に合わせてお花見に参ります。是非ご参加ください。

★春は別れと出合いの季節、稚児・海真も小学校を卒業いたします。寺子屋習字教室の六年生、十三名も今年で卒業です。年長さんから始めた子供たち、今は大きく立派になりました。習字も上手になりました。六年生はお別れで寂しいことですが、新たに新一年生がぞくぞく入ってきました。すでににぎやかになっています。

★住職もようやく小学校のPTA会長をお役御免になります。しかしすでに小針中学校からPTA会長を頼まれました。子どものため地域のため、しいては瑞林寺のためにお引き受けした次第です。よろしく願い申し上げます。

★寒い冬も、太陽は雲霧に覆われているだけで春が来ればまた顔を覗かせてくれます。私たちの心と一緒に。春のお彼岸にはたくさんのご参集をお待ち申し上げます。

